

I. 活動成果及び今後の課題

(注) 各項目の記述には必要な分量のスペースを使ってください。

(1) 活動成果
今シーズンは国内大会でシングルに入ることが出来ました。ワールドカップ選手が参加する中でシングルに入ることが出来たのは自信になりました。その成果もあり、来シーズンからの所属先が決まり、さらにスキージャンプに専念できることになりました。スキージャンプのスーツのルール変更で、昨秋に新調したものが大会で着用不可になりましたが、助成金で冬シーズンからのスーツを新調することが出来ました。冬シーズンの主な大会成績です。
・名寄ピヤシリジャンプ大会 兼 北海道新聞社杯ジャンプ大会 (2025年12月13日) 10位
・吉田杯ジャンプ大会 (2025年12月14日) 9位
・HBCカップジャンプ競技会 (2026年1月12日) 13位
・TVh杯ジャンプ大会 (2026年1月31日) 7位
・雪印メグミルク杯ジャンプ大会 (2026年2月1日) 9位
・雪印メグミルクカツゲンカップ (2026年2月24日) 14位
・札幌オリンピック記念スキージャンプ競技大会 (2026年2月25日) 14位
・宮様スキー大会国際競技会 ノーマルヒル (2026年2月27日) 11位
・宮様スキー大会国際競技会 ラージヒル (2026年3月1日) 9位
・伊藤杯シーズンファイナル大倉山ナイタージャンプ大会 (2026年3月14日) 14位
(2) 今後の課題
今シーズンはジャンプのいいイメージを掴むことが出来ました。練習で得た良いフィーリングを試合で100%出せるようになることが今後の課題です。また、場所によって異なるジャンプ台に即対応出来るようにすることも、ステップアップする上で必要になってくるスキルです。その為には空中のテクニックの精密さを上げたいです。どのような風にも対応出来るように、スタートゲートの位置を上にあげ、スピードをもらったところから高い位置に飛び出し、着地までの流れを身に付けたいと思っています。国際大会はレベルが高く、スタートゲートの位置が低く設定されます。それに備えて徐々にゲートを低くしていきたいです。また、小さなジャンプ台から大きな台までミックスしながら練習していきたいと思っています。斜面の角度やスピードが変わっても、安定した同じ動きを身に付ける為です。これらの課題に取り組み、練習できる本数が少ない国際大会でも試合に集中して、自分のスキルを発揮出来る対応力を磨いていきたいです。風や雪の不利な条件の試合でも、結果を残せるような選手になります。

II. 支出報告 (使途、数量等を具体的に摘要欄に記入して下さい)

費 用	金 額	摘 要
(1) 道 具 費	132,000 円	スキージャンプ用スーツ 1 着
(2) 費		
(3) 費		
(4) 費		
(5) その他		
合 計		

※上記に記載された支出の事実が分かる領収証のコピーを添付してください。

記録写真等貼付欄（画像印刷可）

活動の様子を記録した画像・写真等がある場合は、このスペースに貼付してください。

※スペースが足りない場合は、別途添付してください。

お送りいただいた写真等は原則として返却いたしませんのでご注意ください。



2025年12月 名寄ピヤシリシャンツェ（名寄市）



2026年2月 大倉山ジャンプ競技場（札幌市）